

佐藤俊介×スー・アン・チャイ

(ヴァイオリン) (フルテピアノ)

デュオリサイタル



Program

- ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調「雨の歌」Op.78
J.ヨアヒム：ロマンス ハ長調
ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ長調 Op.100
C.シューマン：3つのロマンス Op.22
ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 Op.108



©Marco Borggreve

2024.10.11(金)
19:00開演(18:30開場)

●浜離宮朝日ホール 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
朝日新聞東京本社・新館2階

料金(全指定席・税込) 一般¥5,000 U30¥2,000

一般発売 2024年6月15日(土)10:00~

販売所 ※U30の取り扱いは朝日ホール・チケットセンターのみ。座席選択はできません。

朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990

(日・祝除く 10:00~18:00)

イープラス <https://eplus.jp/asahihall/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/>

teket(電子チケット) <https://teketc.jp/9987/35676>



お問い合わせ 朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990
(日・祝除く 10:00~18:00)

主催: 朝日新聞社／浜離宮朝日ホール 特別協賛: 竹中工務店

※就学前のお子様はご入場いただけません。

託児サービスをご利用くださいませ(要予約)。

【託児サービスのお問合せ・お申込み】

イベント託児・マザーズ

0120-788-222

※U30は公演日当日に満30歳以下である方が対象。公演当日、生年月日のわかる身分証(顔写真付き)をご提示の上、座席指定券と交換してご入場ください。

※都合により公演内容が変更となる場合がございます。

※公演延期・中止の場合を除き、チケット代金の払戻しはおこないませんので予めご了承ください。



●フルテピアノ:
J.B.ショトライヒヤー No.7150

作曲家の生きた時代の演奏法、楽器などの情報を取り入れた「ピリオド奏法」はバロック期から古典派時代の作品ではひじょうに豊かな成果をもたらしている。一方で、19世紀中盤以降のロマン派の時代では、その取り組みはまだ十分とは言えないだろう。しかし、佐藤俊介とスーアン・チャイは果敢にそれに取り組んでいる。チェロの鈴木秀美を加えたトリオでの演奏では、ロマン派室内楽の新しい世界を垣間見てくれた。

そのふたりが今回は Brahms のヴァイオリン・ソナタ全曲のほか、Brahms に関わりの深いクララ・シューマンとヨーゼフ・ヨアヒムの作品も加えたリサイタルを開く。使用するフルティピアノは Brahms が個人的に最も愛着を持っていたと言われるヨハン・バプティスト・シュトライヒャー。Brahms の3曲のヴァイオリン・ソナタはそれぞれが作曲家の心の中を見せてくれるような音楽的内容を持っているだけに、ガット弦とフルティピアノの作る音の世界、そしてヨアヒムが後世に残した様々な演奏情報をたっぷり詰め込んだ演奏となるに違いない。私たちは、作曲家が生きた時代、その現場に再び立ち会うような気持ちで、傑作を聴くことができるはず。待望のコンサートである。

片桐卓也(音楽ライター)

PROFILE



佐藤俊介(ヴァイオリン)

ヴァイオリニストであり、指揮者、室内楽奏者、ソリスト、指導者でもある佐藤俊介の多様さは、彼の多才で臨機応変な性格を反映している。世界各地のピリオド楽器アンサンブルやシンフォニック・オーケストラを指揮し、ソリストとしても出演。2013年から23年まで、オランダ・バッハ協会(<http://www.youtube.com/bach>)の音楽監督兼コンサートマスターを務め、2019年9月から10月に行われた、同管弦楽団の日本ツアーを成功させた。2011年からはコンセルト・ケルンのソリスト、指揮者、コンサートマスターを務めている。オーストラリア・ブランデンブルク管弦楽団、東京交響楽団、ハーフのレジデンティ・オーケストラ、セビーリャのオルケストラ・バロッカなどから客演指揮者として定期的に招聘されている。2013年からアムステルダム音楽院の教授としてヒストリカル・ヴァイオリンを教えている。録音も「パガニーニ:24のカプリースop.1」では、パガニーニの作品を世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音した。最新盤は「J.S.バッハ:無伴奏ソナタ&パルティータ(全曲)」。2010年、ライブツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞受賞。2019年度 第61回毎日芸術賞、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

©Marco Borggreve

スーアン・チャイ(フルティピアノ)

スーアン・チャイは、ピアノとヒストリカル・ピアノの双方で高い評価を受けている。近年では、ベートーヴェン・フェスティバル(オランダ)、ラ・フォル・ジュルネTOKYOや、その他アメリカやヨーロッパの至るところの音楽祭やコンサート・シリーズに出演している。2012年にベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲を演奏する大規模なプロジェクトを始動させた。スーアンのベートーヴェン・ソナタのCDは、アメリカの音楽雑誌ファンファーレや、BBCミュージック・マガジン誌等で熱狂的な批評を獲得。また、バリトンのマタイス・ファン・デ・ウールドや、フルートのタミ・クラウスとの共演によるCD録音をはじめ、ベルギー系iran人写真家Mashid Mohadjerinの写真とスーアン・チャイのライブ演奏による共演など、幅広いアーティストと共に演している。オバーリン・カレッジ(アメリカ)でピアノ演奏と生物学の両方の学位を取得し、ニューイングランド音楽院(ボストン)とハーフ王立音楽院(オランダ)を修了した。これまでに、ジャック・ラダンスキー、ノーマ・フィッシャー他に師事。



©Marco Borggreve



フルティピアノ: J.B.シュトライヒャー No.7150 [ウィーン/1871年製]

ヨハン・バプティスト・シュトライヒャーは19世紀に活躍したウィーンのピアノ製作家。Brahms は1839年製のコンラート・グラーフピアノと1868年製のJ.B.シュトライヒャーピアノを長く愛用していたことが知られている。Brahms は、1871年製のJ.B.シュトライヒャーピアノもウィーンの住居で所有、交響曲第4番作曲の頃に使用されていたが、その後第2次世界大戦で焼失した。本公演で使用するピアノは、焼失した楽器と同型の貴重なフルティピアノである。

浜離宮朝日ホール

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
朝日新聞東京本社・新館2階 TEL 03-5541-8710

アクセス ●「築地市場駅」都営大江戸線(A2出口)すぐ

浜離宮朝日ホール 公式



@HamarikyuAH